

# 中学校外国語科 「CAN-DO リスト」の形での 学習到達目標作成ガイド

このガイドは、「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」（文部科学省）に基づき、文部科学省指定「平成 25 年度英語によるコミュニケーション能力・論理的思考力を強化する指導改善の取組事業」拠点校において行った取組を、本事業の運営指導委員長である島根大学教育学部猫田英伸准教授の監修を得てまとめたものです。

各中学校または地域で「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を設定する作業を通し、生徒に身に付けさせたい英語力を明確にするとともに、ねらいに迫る指導の充実が図られるよう、本資料の活用をお願いします。

平成 26 年 2 月

**島根県教育庁義務教育課**

# 1 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を作成する理由

## ～学習指導要領で求められている、生徒が身に付けるべき英語力とは？～

中・高等学校における英語教育では、学習指導要領を踏まえ、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成し、英語によるコミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力を養うことが求められています。そのためには、単語や文法事項等の知識を身に付けることにとどまらず、それらを活用して、実際の言語使用場面で「英語を使う力」を育成することが大切です。

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標は、生徒に身に付けさせたい「英語を使う力」を具体的に示し、そのゴールに向けた効果的な授業を計画するためのものです。指導者は、いわば「生徒を乗せたバスの運転手」であり、目指す「英語を使う力」を目的地として、生徒を着実に導いていかなければなりません。言うまでもなく、目的地を知らない運転手に、生徒を送り届けることは不可能です。

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を作成することにより、この「英語を使う力」が明確になり、生徒にとっても、指導者にとっても、ねらいがはっきりとした授業が可能になります。

そうした授業を実現することにより、英語によるコミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の育成が期待できることから、すべての中学校・高等学校において作成するよう求められています。

## <日頃の授業を振り返ってみましょう>

英語はコミュニケーションのツールであり、実際に使えるようになることが英語学習の最終ゴールです。例えば、野球のルールを詳しく知っていても、ボールを投げ、バットで打ち、たくさんのゲームを経験しなければ野球が上達しないように、いくら英文法の知識を身に付けても、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりする練習なしでは、英語を使えるようにはなりません。

しかし、そんな当たり前のことが、意外と普通の授業では忘れられがちです。知らず知らずのうちに、次にあげるような授業になっていないでしょうか？

- ・ 授業のねらいが、「言語や文化についての知識・理解」（単語や文法学習）に偏っている。  
【野球の練習に例えると】毎日、野球のルールや技術についての講義ばかりを繰り返す。
- ・ 身に付けた英語を使って何かをするという発想がない。  
【野球の練習に例えると】毎日、素振りとキャッチボールばかりで、実践練習やゲームはしない。
- ・ その単元でどんな「英語を使う力」を身に付けるのか明確でない。  
【野球の練習に例えると】「次の試合で勝つ」といった目標もなく、なんとなく練習を繰り返す。
- ・ 教科書に沿って進むこと以外に、単元内の1時間、1時間の授業に指導の系統性がない。  
【野球の練習に例えると】毎日の素振りやキャッチボールが何のための練習なのかわからない。
- ・ 英語を使って何かができたと達成感が得られない。  
【野球の練習に例えると】試合に勝ったり、良いプレイができたりしたときの喜びを知らない。
- ・ だから英語学習が楽しくなくなり、モチベーションが下がらないから英語が嫌いになる。  
【野球の練習に例えると】だから練習が楽しくなくなり、野球をやめたくなる。

これらの陥りがちな授業スタイルを改善し、生徒が主体的、意欲的に取り組むことができる授業を創造するためにも、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を作成する必要があります。

## 2 英語学習の充実に直結する「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標 ～作って実感！単元のねらい、指導のつながり～

### <生徒の英語学習を充実>

#### ○授業で英語を使う機会が増え、生徒の学習意欲が向上します

単元の言語活動が充実するので、生徒が英語を使う機会が増えるとともに、英語を使って何かできたという達成感のある授業が展開され、学習意欲の向上につながります。

#### ○自立的学習者として主体的に学習する態度が養われます

生徒に「～ができるようになりたい」といった自覚が芽生え、自ら取り組んでみようという自立的学習者としての態度や姿勢が身に付きます。

(注)「CAN-DO」リストの形での学習到達目標は、英語検定のような「級」や「グレード」を用いて、生徒の英語力に等級を付けるためのものではありません。

### <指導者の授業改善を推進>

#### ○各単元でめざす「英語を使う力」が明確になります。

文法事項を中心に考えがちであった単元目標を、4技能のうちの1つに焦点化することで、ねらいとする「英語を使う力」が明確になり、指導のための言語活動が計画しやすくなります。

#### ○単元計画が立てやすくなり、1時間1時間の授業がつながります。

その単元でめざす「英語を使う力」に迫るための言語活動を設定し、その言語活動を行うために必要な指導事項を計画することで、単元内の各時間の指導が系統性のあるものになります。

#### ○年間を通して、4技能をバランスよく指導・評価することが容易になります。

各単元の目標が明確になり、どの単元でどの技能を中心的に指導・評価すればよいかははっきりするので、指導や評価の計画が立てやすくなります。

#### ○年間指導計画の見直しが容易になり、PDCAサイクルが活性化します。

単元目標や言語活動、単元内の学習活動について振り返る機会が増えるので、自ずとPDCAサイクルが活性化され、年間指導計画の見直しにつながります。

これらのことは、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を**実際に作ってみなければ実感できません**。指導者にとって最も大切なのは、これを**作成する過程を通して、各単元のゴールとなる「英語を使う力」と言語活動を明確にし、評価規準や評価方法を確認すること**です。

また、作成にあたっては、**各学校の英語科教員全員で協力して相談しながら作成すること**が大切です。**市郡教育研究会等の単位で地域の英語科教員が集まり、一緒に作成することも可能**です。複数の英語科教員が意見交換・協議し、共通理解を図りながら作成することで、より充実した学習到達目標になるとともに、個々の授業力や教員のチームワークの向上にもつながります。

### 3 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の作成方法

～急がば回れ! 作成の労力は、充実した授業への価値あるステップ! ～

#### < 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標って何? >

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標とは、生徒の学習状況や地域の実態を踏まえ、中学校3年間の学習到達目標を、「～することができる。」という文章（能力記述文）で設定したもので、最終的に下図のような1枚の表にまとめて表示されます。中学校卒業時の目標を達成するための学年ごとの目標を、年間及び単元の指導と評価の計画の策定と並行して、4技能を用いて「～することができる。」という「CAN-DO リスト」の形で設定します。

「CAN-DO リスト」という言葉がついていますが、あくまで「CAN-DO リスト」の形を用いた「学習到達目標」であり、生徒の英語力を判定するための「CAN-DO リスト」ではないということに注意が必要です。

また、「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」の観点についてのみ目標設定し、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」及び「言語や文化についての知識・理解」については一切記述しません。「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標は、コミュニケーションのための英語活用能力の到達目標であることに留意する必要があります。

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標

	第1学年	第2学年	第3学年
話すこと	○ ..... ..... ○ ..... .....	○ ..... ..... ○ ..... .....	○ ..... ..... ○ ..... .....
書くこと	○ ..... ..... ○ ..... .....	○ ..... ..... ○ ..... .....	○ ..... ..... ○ ..... .....
聞くこと	○ ..... ..... ○ ..... .....	○ ..... ..... ○ ..... .....	○ ..... ..... ○ ..... .....
読むこと	○ ..... ..... ○ ..... .....	○ ..... ..... ○ ..... .....	○ ..... ..... ○ ..... .....

各技能についての能力記述文は、学習指導要領上の目標及び使用する教科書の内容などを踏まえ、その学年の終了時点で、すべての生徒が達成すべき「英語を使う力」として設定します。

「すべての生徒が達成すべき」とは、「英語が苦手な生徒の能力にあわせて低く設定する」という意味ではありません。その学校の平均的な学力の生徒にあわせて設定し、本人の努力や指導者の支援により下位の生徒にも達成させたい目標を設定します。

中学校英語の目標は3年間を通じたものが技能ごとに「～できるようにする。」という形で学習指導要領に示されているので、学年ごとの学習到達目標は、これらの目標を「どのような条件のもとで」、「どの程度」、「どのような内容を」等、段階分けして設定することになります。

## < 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の作成方法 >

作成する「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標は、前ページに示した表の形式で作成します。最終的にできあがるのはこの1枚ですが、これを作成するために、いくつかのステップを踏みながら各単元の目標等を明確にしていく必要があります。その作成過程を通して、単元の指導計画等を見直すことで、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標が授業改善に直結し、意義あるものとなります。

作成には、完成までに20～30時間程度の作業が必要になりますが、組織的・計画的に進め、全ての学校において「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標が作成されるようお願いします。

### (1) 準備するもの

○各学校の外国語科年間指導計画表

- ・年間指導計画に書かれている単元の目標が、「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」の観点で書かれていない場合は使うことができません。その場合は、教科書の指導書に添付されている年間指導計画作成資料等を参考資料として作業を進め、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の完成後に、年間指導計画を修正します。

○島根県教育用ポータルサイトからダウンロードした次の作業用様式及び資料

- ・【作業1】用様式：単元の目標を書き出す様式
- ・【作業2】用様式：各学年の技能ごとに単元の評価規準、言語活動等を設定する様式
- ・【作業3】用様式：技能ごとの3カ年の評価規準一覧をもとに、能力記述文を設定する様式
- ・【作業4】用様式：「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の様式
- ・単元目標から単元の評価規準を設定するための資料

○英語科教科書

### (2) 留意事項等

○各学校の英語科教員全員で協力、相談しながら作成してください。市郡教育研究会などの単位で、近隣の中学校の英語科教員が集まって作成することも可能です。

○島根県教育用ポータルサイトのダウンロードサイトから、「平成25年度英語によるコミュニケーション能力・論理的思考力を強化する指導改善の取組事業」拠点校で作成した各作業様式のPDFファイルをダウンロードすることが可能です。参考資料として活用していただくことが可能ですので、必要に応じてご活用ください。

### (3) 作成方法

#### <作業1>各単元の目標をピックアップする

【作業1】用様式に、年間指導計画に記載された各単元の目標のうち、「外国語表現の能力」、「外国語理解の能力」に関連した目標だけをピックアップし、作業1用様式に転記します。年間指導計画に書かれた目標が、「言語や文化についての知識・理解」ばかりについて書かれている場合は、教科書指導書に添付されている年間指導計画作成資料等を利用して作業し、学習到達目標設定後に、それをもとに年間指導計画を見直します。

【作業1】第2学年

作成例

単元	単元目標 (「～する」形の語尾で記載する)	外国語表現の能力		外国語理解の能力	
		話す	書く	聞く	読む
Warm-up A Speech and a Game	自分や身の回りの事柄について英語で話したり、英語の質問を聞いて適切に答えたりする。	○			
Unit 1 Dogs with Jobs	まとまりのある説明文を読み、内容を理解する。				○
Listening Plus 1 テレビ広告	英語のCMを聞いて、おおまかな内容を理解する。			○	
Writing Plus 1 日記	文章の流れを考えて、4文以上の英語で、日記を書く。		○		
Unit 2 A Trip to New Zealand	入国審査の場面での応答を行う。	○			
Listening Plus 2 海外旅行	搭乗案内放送等、海外旅行時の公共案内放送を聞いて、具体的な内容や大切な情報を聞き取る。			○	
Speaking Plus 1 先生にお願い	先生など目上の人に対して、ていねいに許可を求めたり、依頼したりする。	○			
Unit 3 My Future Job	自分の将来の夢について紹介する文を書く。		○		
Listening Plus 3 家事アンケート	表やグラフを見ながらプレゼンテーションを聞き、ポイントを聞き取る。			○	

年間指導計画から、各単元の目標を書き出します。(文末は「～する。」「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」に関連した目標のうち、**その単元でもっとも重点的に扱う目標を1つ(多くても2つまで)ピックアップし書き出します。**「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「言語や文化についての知識・理解」の目標は、ここでは取り上げません。単元の特色や自分の指導方法等を考えながら、どの技能を中心に扱うかをしっかり考えることが大切です。

また、単元目標は、教科書の内容に限定されたものにせず、広く別の場面でもその能力が生かせるような書き方をします。

○ 物語文を読んで、場面の変化や登場人物の心情などを読み取る。

× 「Roy Brown」を読んで、主人公ロイの心情などを読み取る。

それぞれの単元目標が4技能のどれに関連する目標かを、○印で記入していきます。単元目標には2つ以上の技能に関連する複数の目標が設定されていることもありますが、その単元で特にどの技能を中心に指導するかを考え、単元目標を1つの技能に絞り、○を付けていきます。○を2つ付ける場合は、単元目標も2つ設定します。

この作業を、第1学年から第3学年まで行います。ただし、「文法のまとめ」「練習」といった、言語や文化についての知識・理解のみを扱っている単元は対象としません。

【作業1】用様式が完成したら、1つの技能について縦に見てみてください。どの単元でどの技能が中心的に扱われるかが見えてきます。学年を通して見たとき、「話すこと」は多いのに「聞くこと」がほとんどないなど、4技能のバランスが悪く偏りがある場合には、年間指導計画の単元目標を変更するなどして調整する必要があります。

## ＜作業2＞各単元の評価規準、言語活動、評価方法等を計画する

できあがった【作業1】用様式をもとに、【作業2】用様式を作成します。【作業2】用様式は、学年別に各技能1枚で構成されており、技能ごとに単元の評価規準を記入します。このシートの作成が、授業改善に最も大切な作業です。「この単元でどんな力をつけるか」ということが明確になります。

作成例

【作業2】

2年生 外国語表現の能力 ＜書くこと＞		O文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと O語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと O聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること O身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと O自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと				
U	単元名	主な言語材料	【作業1】の単元目標をもとに単元の評価規準を設定 外国語表現の能力＜書くこと＞に関するものだけを記載	指導のための 中心的な言語活動	評価方法	評価の視点
WP1	日記	動詞の過去形、過去進行形	文と文のつながりを考えて、4文以上の英語で、日記を書くことができる。	ALTに、4文以上の英語で自分の日記を書く。	ワークシートに1年生時の思い出について英文で書かせる	WA1
U3	My Future Job	不定詞 副詞的用法 名詞的用法 形容詞的用法	自分の将来の夢について不定詞などの文法事項を活用して、正しく書くことができる。	ALTに、自分の将来の夢について英語で書く。	ペーパーテストで夏休みにしたいことについて3文で書かせる。	WC1
WP2	メール	メール特有の文形式や有用表現・略語・絵文字	家族や友達へのメールを、ふさわしい表現を用いて4文以上の英語で書くことができる。	友達に、夏休みの予定についてメールを4文以上の英語で書く。	ワークシートにALTへのメールを想定し4文で書かせる。	WA1
MP1	夏休み	自己表現（夏休みについて）	自分の夏休みを紹介する文を、文と文のつながりに注意して4文以上の英語で書くことができる。	ALTに、自分の夏休みについて4文以上の英語を書き、紹介する。	ペーパーテストでテーマに沿った4文での英文を書かせる。	WA3
MP2	町紹介	自己表現（自分が住んでいる町）	自分の街を紹介する英文を、文と文のつながりに注意して4文以上の英語で書くことができる。	ALTに、江津について4文以上の英語を書き、紹介する。	ペーパーテストでテーマに沿った4文での英文を書かせる。	WA3
WP3	詩	一般動詞の過去形	好きなテーマについて、ふさわしい表現を用いて英語の詩を作ることができる。	自分が好きなテーマについて5行詩を書く。	単元の総括的評価は行わず、形成的評価を参考資料とする。	WA1

※これを元に学年の学習到達目標を設定する。

ここには、【作業1】用様式に記入した単元目標に対応した、単元の評価規準を設定し記入します。その際、表の上部に記した学習指導要領に記載された指導内容や、別添資料「単元目標から単元の評価規準を設定するための資料」を参照し、場面や状況を具体的に絞った評価規準を、「～できる。」という文末表記で記入します。

「評価の視点」には、別添資料「単元目標から単元の評価規準を設定するための資料」から、左列の評価方法で評価する際の視点をピックアップし、記号で表記します。

「主な言語材料」には、学習する主な文法事項や文構造を記入します。

左列の言語活動を通して身に付けた力を評価（総括評価）する方法を記入します。その力が身に付いたかどうかを確認するためには、授業で行った言語活動と同様の別の言語活動を行わせ評価する必要があります。

左列の言語活動は、指導のための言語活動であり、教員の指導や支援が行われるため、それ自体で生徒の英語力を評価することはできないことに留意する必要があります。

左列の評価規準に示された力を付けるために授業で行う、その単元の主たる言語活動を、具体的に記入します。

### ＜作業3＞各単元の計画から学習到達目標を設定する

【作業2】用様式を技能ごとに3学年分作成した後、【作業3】用様式を使って、技能別に第1学年から第3学年までの単元の評価規準を一覧にし、1学年分の単元の評価規準を総括することで、その学年の学習到達目標となる能力記述文を設定します。

#### 【作業3】

単元計画一覧の単元の評価規準から各学年の学習到達目標を設定する

#### 【書くこと】

作成例

学年	評価規準	評価の視点	CAN-DO リストの形での学習到達目標
1年	英文3文以上で自己紹介の文を書くことができる。	WC1	○身近で書きやすい内容について3文以上の英語を使い正しく書くことができる。 ○ハガキやカード等にふさわしい表現を用い、簡単な内容について適切に書くことができる。
	江津中を紹介する英文を3文以上で書くことができる。	WA1	
	目的に合わせたグリーティングカードを、カードの正しい書き方に従って、「そえることば」をつけて書くことができる。	WA1	
	自分の1日の生活について、8つの行動を動詞を正しく使って書くことができる。	WC1	
	一般動詞の過去形を使って、自分が過去にしたことについて、文と文のつながりに注意して3文以上の日記を書くことができる。	WA3	
はがきの書き方に従い、過去形を使った3文以上の英文ではがきを書くことができる。	WC1		
2年	文と文のつながりを考えて、4文以上の英語で、日記を書くことができる。	WA1	○自分の考えや意見等抽象的な内容を含む4文以上の英語を正しく書くことができる。 ○文のまとめやつながりに注意して、身近な話題について適切に書くことができる。
	自分の将来の夢について不定詞などの文法事項を活用して、正しく書くことができる。	WC1	
	家族や友達へのメールを、ふさわしい表現を用いて4文以上の英語で書くことができる。	WA1	
	自分の夏休みを紹介する文を、文と文のつながりに注意して4文以上の英語で書くことができる。	WA3	
	自分の街を紹介する英文を、文と文のつながりに注意して4文以上の英語で書くことができる。	WA3	

【作業2】用様式の単元の評価規準と評価の視点を、そのままコピーペーストします。必要に応じて様式の行を追加・削除してください。

左列の1学年分の単元の評価規準を、2～4文程度の「能力記述文」にまとめて書きます。その際、評価の視点も手がかりとしながら、各学年の能力記述文が系統的に配列されるよう注意します。

### ＜作業4＞「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の完成

【作業3】用様式の右側の列を、【作業4】用様式にコピーペーストし、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標が完成します。